

令和 6 年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立平野北中学校

令和 7 年 2 月

大阪市立平野北中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

一人ひとりを大切にする教育を進めることにより、人権意識を高め、相手の立場に立って行動できる豊かな心をもつ生徒の育成を図っている。

生徒の自己肯定感が低い傾向にあったが、生徒の自己理解の取り組み、生徒が主体となった行事の取り組み等により、校内調査における「自分によいところがある。」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、2021年度は74.6%、2022年度は79.7%、2023年度は80.4%と年々上昇がみられた。今後も継続して自己肯定感を高める取り組みをしていきたい。

確かな学力の向上のために、ICT機器等の教育機器の活用による授業改善を進めている。校内調査における「授業はわかりやすい。」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、2022年度は91.1%、2023年度は91.1%と肯定的な回答の割合は高い数値になっている。しかし、昨年度のチャレンジテストにおいて、1年生では3教科が大阪市平均を上回ったものの、2年生ではすべての教科で大阪市平均を下回った。また、1・2年生ともに下位層の割合が高く、より一層の基礎基本となる学力を定着させるため、よりきめ細かい指導とICTを活用した主体的・対話的で深い学びへの授業改善が必要である。

体力面でも、全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点で大阪市平均、全国平均を下回っている。今後もさらなる体力・運動能力を向上させる指導および取り組みを進めていく。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な割合を85%以上とする。
- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査において、「自分にはよいところがあります」に対して、肯定的な割合を77%以上とする。
- ・令和7年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「よく当てはまる」と回答する生徒の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査における平均正答率の対大阪府比を1.00以上とする。
- ・令和7年度の大阪市英語調査におけるCEFR A1レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を56%以上にする。
- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対大阪市比を1.00以上とする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度の「活動の中で学習者用端末を活用している」に対して、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を100%にする。
- ・令和7年度の「学校園における働き方改革推進プラン」における教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を基準1は49.7%以上、基準2は75.4%以上に

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ② 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ③ 年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- ④ 年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ⑤ 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「よく当てはまる」と回答する生徒の割合を83%以上にする。
- ② 年度末の校内調査における「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ③ 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。
- ④ 大阪市英語調査におけるC E F R A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を40%以上にする。
- ⑤ 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びも含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を55%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の80%以上にする。（但し、事務局が定める学校行事等、ICT 活用が適さない日数を除く）
- ② 年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。
- ③ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」における教職員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を基準1は49.7%以上、基準2は75.4%以上にする。

【その他】

- ① 食育を進め、校内調査で「給食を全部食べている・ほぼ食べている」とする回答を90%以上にする。
- ② 年度末の校内調査における「学校はいつもきれいだと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和 6 年度の全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な割合を 85%以上とする。 →89.0%（前年度 74.6%）
- ・令和 6 年度の全国学力・学習状況調査において、「自分にはよいところがあります」に対して、肯定的な割合を 77%以上とする。 →86.3%（前年度 79.3%）
- ・令和 6 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「よく当てはまる」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。
→86.3%（前年度 78.7%）

※どの項目についても前年度を上回る結果となり、日々の取り組みの成果が出た結果となった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和 6 年度の全国学力・学習状況調査における平均正答率の対大阪府比を 1.00 以上とする。 →0.88
- ・令和 6 年度の大阪市英語調査における C E F R A1 レベル（英検 3 級）相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合を 56%以上にする。 →45.45%（前年度 36.0%）
- ・令和 6 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対大阪市比を 1.00 以上とする。
→男子 0.93 女子 0.91

※次年度は一人一台端末をさらに活用し、「主体的・対話的で深い学びの授業」への授業改善を進め、学力の向上を図る。

※全国体力・運動能力、運動習慣等調査において多くの種目で男女ともに大阪市平均を下回っているので、授業や部活動、その他運動にかかわる教育活動を通して運動をすることの楽しさや大切さを実感させながら、継続して体力の向上を図る。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和 6 年度の「活動の中で学習者用端末を活用している」に対して、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を 100%にする。 →90.8%
- ・令和 6 年度の「学校園における働き方改革推進プラン」における教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を基準 1 は 49.7%以上、基準 2 は 75.4%以上にする。→基準 1 40.54% 基準 2 64.86%

※次年度も一人一台端末を活用した授業へ少しずつ改善していく。

※次年度も働き方改革を進め、教職員の働きやすい環境を整備していく。

年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 80%以上にする。 →79.5%（前年度 78.7%）
- ② 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。→12.0%（前年度 7.97%）
- ③ 年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 →33.3%（前年度 25.5%）
- ④ 年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。 →88.7%（前年度 80.4%）
- ⑤ 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上にする。 →87.2%（前年度 85.9%）

※①について、毎学期に「いじめアンケート」を実施している。アンケート結果から事象が認知されたすべての事案に関して、解消または継続指導中である。

※②・③については SSR(スペシャルサポートルーム)を設置したことで、特に 3 年生の不登校生徒が登校し、改善の割合が増加したが、各学年で不登校生徒が微増したことと、不登校生徒の転入が多くあったせいもあり、不登校生徒の在籍比率が増加してしまった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に「よく当てはまる」と回答する生徒の割合を83%以上にする。 →43.7%（前年度 39.5%）
- ② 年度末の校内調査における「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。 →96.3%（前年度 90.5%）
- ③ 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.03 ポイント向上させる。
→（3年）国語 -0.02 数学 +0.04
- ④ 大阪市英語調査における C E F R A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を40%以上にする。 →45.45%（前年度 36.0%）
- ⑤ 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びも含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を55%以上にする。 →55.7%（前年度 51.2%）

※①については目標の再設定を検討する。

※②については良いアンケート成果が出ているが、全国学力・学習状況調査やチャレンジテストの正答率等でよい成果が出ていないので今後はアンケート結果に結び付けていきたい。

※③については 国語 0.94→0.92（-0.02） 数学 0.92→0.96（+0.04）

※④については今年度から英語検定も3年生だけ全員受験させ、英語に取り組む機会を増加したことが良い結果につながった。

※⑤については全国体力・運動能力、運動習慣等調査ではよい結果が出なかったが、生徒は運動やスポーツの好きな人がたくさんいるので、運動の大切さを促し、自分に合った運動を選び、実施していくことで体力の向上を図る。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の80%以上にする。（但し、事務局が定める学校行事等、ICT活用が適さない日数を除く） →68.6%（12月現在）
- ② 年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。 →66.7%（前年度 64.9%）
- ③ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」における教職員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を基準1は49.7%以上、基準2は75.4%以上にする。
→基準1 40.54% 基準2 64.86%（12月現在）

※①については一人一台端末の使用回数が増加するよう授業改善を行いつつ、学校総体として取組方法も改善していきたい。

※②については平野区役所の「読書ノート」等に絡めて今後取り組んでいく。

※③については目標の再設定を検討する。

【その他】

- ① 食育を進め、校内調査で「給食を全部食べている・ほぼ食べている」とする回答を90%以上にする。
→94.5%（前年度 90.9%）
- ② 年度末の校内調査における「学校はいつもきれいだと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 →84.1%（前年度 79.4%）

※①については食育を進めるにあたり、自分に合った食事のバランス（量・質）を考え、健康の保持増進につながるよう図っていく。

※②については日ごろの教育活動が良い成果としてあらわれた。

大阪市立平野北中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ① 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 ② 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ③ 年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 ④ 年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 ⑤ 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】(生活指導部 いじめ) 生徒理解に努め、信頼関係の構築を図り、内面に迫る生徒指導を推進し、安心して学べる環境をつくる。 ----- 指標 年2回の教育相談の実施や職員室前相談スペースの活用などを行う。 いじめアンケートを学期ごとに実施し、必要に応じて対応を行う。	B
取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】(生活指導部 不登校) 生徒理解に努め、信頼関係の構築を図り、内面に迫る生徒指導を推進し、安心して学べる環境をつくる。 ----- 指標 家庭との連携を密にし、適切に対応する。外部(SC, SSW, SSR など)との連携を図り、不登校生徒の割合を減少させる。(昨年度 約7.9%) 不登校連携会議を毎月行い、不登校生徒の情報を共有する。	B
取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】(生活指導部 防災減災教育の推進) 地域、区役所、PTA と連携して、生徒の安全をまもるための教育カリキュラムを実施して、災害時等の対応に備える。 ----- 指標 計画的に防災・減災教育カリキュラムを実施する。	B
取組内容④【2 豊かな心の育成】(教務部 人権を尊重する教育の推進) 生徒の実態にもとづいた人権、差別問題を学び、自分の倫理観・価値観を見つめ直す活動を行い、生きる力を引き出していく。また、講演や鑑賞を通して、日本古来の歴史や文化を尊重し、多角的な視野をもって社会に貢献する態度を育成する。 ----- 指標 実践におけるアンケートや感想を共有し、お互いの考えを発表できる。	A
取組内容⑤【2 豊かな心の育成】(道徳教育推進担当 道徳教育の推進) 道徳教育を推進し、授業時数 35 時間(22項目)の確保に努める。先生方に道徳教育の研修会への参加を呼びかけ、道徳の授業力向上を目指す。	B

指標 授業時数（35 時間 2 2 項目）を確保する。	
取組内容⑥【2 豊かな心の育成】（教務部 キャリア教育の推進） 学校内外の実習などを通して、自分の生き方を考えるスキルを身につける。	B
指標 学校評価アンケートでの取り組み内容の項目を肯定的な回答を70%以上とする	
取組内容⑦【2 豊かな心の育成】（生活指導部 特別活動の推進） お互いを認め、支え合う集団作りに努める。そのために、生徒専門委員会を含めた生徒会活動や、学校行事、学年行事を通して、集団育成を図る。	B
指標 生徒が主体的に各行事に取り組むように、委員会活動の取り組みを月ごとに生徒議会で発表して共有する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】（生活指導部 いじめ） 予定されていた年に 2 回の教育相談、いじめアンケートの学期末の実施を予定通り行うことができて いる。必要に応じて情報共有、対応ができています。	
取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】（生活指導部 不登校） 家庭、関係諸機関との連携を密に行うことができています。しかし、現在の不登校生の割合は約 12.0% （44 名）と昨年度の約 7.9%よりも上昇した。不登校連携会議は毎月実施しており、今後もより密な情報 共有、関係諸機関への橋渡しが必要であると考えられる。	
取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】（生活指導部 防災減災教育の推進） 3 年間を通しての防災訓練実施のカリキュラムを作成し、各機関と連携して取り組めた。	
取組内容④【2 豊かな心の育成】（教務部 人権を尊重する教育の推進） 年間計画に応じ、各学年、各委員会によって、人権教育実践を計画的に行ってきた。また、本年度は大阪市内で活動している太鼓集団を芸術鑑賞に招き、日本古来の伝統文化を 紹介するとともに、差別についての学習につなげることができた。生徒のアンケートから も、心に響く行事であったことがうかがえた。	
取組内容⑤【2 豊かな心の育成】（道徳教育推進担当 道徳教育の推進） 各学年、学年裁量で計画を立て、道徳の時間確保と授業力向上に努めている。	
取組内容⑥【2 豊かな心の育成】（教務部 キャリア教育の推進） 学校評価アンケートで肯定的な回答が全体で 75.5%となり概ね達成したと考える。2 年生 は 68.8%、3 年生は 82.2%である。学年が上がるごとに自分の進路を考えることができて いる。	
取組内容⑦【2 豊かな心の育成】（生活指導部 特別活動の推進） 生徒会を中心により良い生徒議会の運営に力を入れている。また、前期では、生徒会が平 野人権フェスティバルやスマホサミットのような校外の活動に積極的に参加することがで きた。後期も生徒会を中心に生徒議会のメンバーで、「あいさつ運動」を実施することが できた。今後もより良い学校にするための活動をどんどん発信していきたい。	
次年度への改善点	
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】（生活指導部 いじめ） 今年度に引き続き、アンケート結果や教育相談でわかった内容を指導にいかしていく。	
取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】（生活指導部 不登校） 来年度も不登校連携会議を継続して行い、不登校生徒数の改善に引き続き力を入れていく。	
取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】（生活指導部 防災減災教育の推進） 来年度以降も防災訓練実施のカリキュラムを活用し、しっかりと取り組んでいきたい。	
取組内容④【2 豊かな心の育成】（教務部 人権を尊重する教育の推進） 来年度も年間指導計画通りに進めるとともに、芸術鑑賞では普段関わることの少ない民族 等の差別問題について取り組んでいきたい。	
取組内容⑤【2 豊かな心の育成】（道徳教育推進担当 道徳教育の推進） 来年度以降も学年裁量で計画を立て、道徳の時間確保と授業力向上に努めていく。	
取組内容⑥【2 豊かな心の育成】（教務部 キャリア教育の推進）	

3 学年で高校の先生による学校説明会、2 学期に 2 学年で出前授業・職場体験、3 学期に 1 学年で職業講話を行い生徒たちが自分の進路を考える機会を継続していく。

取組内容⑦【2 豊かな心の育成】（生活指導部 特別活動の推進）

生徒議会の活動も見直しながら、より主体的に生徒が取り組める環境を整えていきたい。

大阪市立平野北中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>① 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を83%以上にする。</p> <p>② 年度末の校内調査における「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>③ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。</p> <p>④ 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を40%以上にする。</p> <p>⑤ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「よく当てはまる」を回答する生徒の割合を55%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】(教務部 全教科 ICT を活用した授業と校内研究授業の実施)</p> <p>全教科、学習者用端末を活用した授業に取り組む。また、生徒が「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを目指した校内もしくは公開研究授業を実施する。</p> <p>指標 年度末の校内調査における「授業に前向きに取り組んでいる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】(管理職 放課後学習の充実)</p> <p>学びサポーターや学校元気UPボランティア等を活用して、生徒個々の学力向上のために、放課後学習や定期テスト前の学習会などの学習サポートを行う。</p> <p>指標 定期テスト前の学習会への参加人数を昨年度以上にする。また全国学力学習状況調査や各学年チャレンジテストの無解答率を大阪市平均以内とする。</p>	B
<p>取組内容③【4 誰一人取り残さない学力の向上】(教科 ICT 等を活用した、わかる授業づくり)</p> <p>(国語)思考・判断・表現力の向上…ICTを活用したわかりやすい授業を展開する。漢字小テスト、授業のまとめ作文を定期的実施する。主体的対話的な学びを実践するため、単元ごとに言語活動を取り入れる。授業で図書室を利用し探求学習を実施する。</p> <p>指標 生徒アンケート調査の結果から、「国語の授業に前向きに取り組んでいる」の項目で、全学年85%以上の肯定的な回答を得ることを指標とする。</p>	B

(社会) 「生徒が主体的に取り組む授業」を創造するために、まず基礎的な事項の定着をはかり、それと並行して ICT 等の教材を活用し、思考・判断力の育成に努める。	A
指標 小テストやノート点検、家庭学習課題によって、基礎的な事項の定着に努める。また、学習意欲を高めるために、ICT (視聴覚教材) 等を利用した授業を創造する。生徒アンケート調査の「社会の授業に前向きに取り組んでいる」の項目で、全学年平均 90%以上の肯定的な回答を得ることを指標とする。	
(数学) 生徒の基礎的な学力の定着に重点をおき、ICT を活用した授業を研究し、生徒が主体的に取り組むことのできるような授業をめざす。	B
指標 教具・教材の研究や情報交換を行い、生徒の実態・状況に適した教材を選定し、授業を創造する。また、ICT を活用し生徒の理解が深めていけるように努める。生徒アンケート調査の「数学の授業に前向きに取り組んでいる」の項目で、80%以上の肯定的な回答を得ることを指標とする。	
(理科) 実験観察を基本に、生徒に考えさせる授業を展開する。ICT を活用し生徒の理解を深める。グループ学習を通して、お互いに触発しあえる授業を展開する。	A
指標 生徒アンケート調査の「理科の授業に前向きに取り組んでいる」の項目で、全学年85パーセント以上の肯定的な回答を得ることを指標とする。	
(音楽) 基礎的な学習を基盤に、創作的な活動などに ICT を活用した授業を研究する。音楽活動の充実を図り、表現することの喜びや達成感を感じられることを目指した授業づくりに努める。生徒が主体となって自己表現する場を設定し、特にクラス合唱を通じて精神面での成長をめざす。	B
指標 生徒アンケート調査の「音楽の授業に前向きに取り組んでいる」の項目で、80%以上の肯定的な回答を得ることを指標とする。	
(美術) 主体的に美術の活動に取り組み、基礎的な知識・技能を身に着けるとともに、豊かに発想し構想する能力や、表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力の向上を図る。また、ICT を活用し生徒の理解を深める。	A
指標 ICT 機器を活用した授業内容、展示などを活用し目標を持った作品制作を通して、充実した表現活動ができるよう、学年に応じた教材や授業展開を工夫する。生徒アンケート調査の「美術の授業に前向きに取り組んでいる」の項目で、80%以上の肯定的な回答を目指す。	
(保体) 体力運動の向上について自分なりの目標を持ちながら、心身の機能の発達や体力の向上を目指し、健康や安全についての知識・理解を深める。	A
指標 心身の機能の発達や体力の向上につながる授業を毎時間行い、健康や安全についての理解が効率良く深まるように ICT 機器を活用した授業を構築していく。生徒アンケート調査の「保健体育の授業に前向きに取り組んでいる」の項目で、90%以上の肯定的な回答を目指す。	
(技家) ものづくりの大切さや・エネルギー変換を教授しながら、教材・教具の精選をし、生活に生かせる実習・製作を行っていく。 (家庭) よりよく生きる力をつけるために、後ろ盾となる知識と役に立つ技能を身につけることができるようにする。	A
指標 各教材を吟味・精選し活用することで、生徒に作業内容を的確に伝える。興味関心が高まるよう様々な工夫をこらしながら実践することで、より充実感の高い授業を目指す。また、ICT 機器を活用して授業内容を工夫する。生徒アンケート調査の「技術の授業に前向きに取り組んでいる」「家庭科の授業に前向きに取り組んでいる」の項目で、80%以上の肯定的な回答を得ることを指標とする。	
(英語) 「わかる授業」「興味の持てる授業」づくりに努める。	B
指標 ICT 機器を活用して、視覚的な情報を多く用いて分かりやすく意欲的に取り組めるよう教材の工夫をする。また、授業の中で英語にふれる時間を確保し、学んだ知識を用いて身近な内容や自分の意見を表現できるよう努める。生徒アンケート	

<p>の回答で「英語の授業を前向きに取り組んでいる」という項目で88%以上の肯定的な回答を答えることを指標とする。</p>	
<p>(特別支援) 生徒・保護者の教育ニーズ等をふまえ、障がいの特性を把握し、一人ひとりの状況と学習内容に応じた支援・指導に努め、自立につながる学力を養う。</p> <p>指標 生徒の実態把握のもと、関係教職員で指導計画を作成し共通理解を図る。ICT 機器を活用した視覚的な支援を取り入れる。放課後等を活用した学習補充を行う。</p>	B
<p>取組内容④【5 健やかな体の育成】(生活指導部 部活動の充実)</p> <p>大阪市部活動指針に基づき、運動部や文化部の活動を充実させる。</p> <p>指標 部活動に意欲を持って参加する生徒の割合を増加させる。(昨年度 75%)</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】(教務部 全教科 ICT を活用した授業と校内研究授業の実施)</p> <p>12月実施の生徒評価アンケート調査における「授業に前向きに取り組んでいる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合はほとんどの教科で90%を超えた。「先生はパソコンや電子黒板などの教育機器を使って、授業を工夫している」の項目でも98%を超えている。また、3学期に「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを目指した校内研究授業を実施することができた。</p> <p>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】(管理職 放課後学習の充実)</p> <p>学びサポーターや学校元気 UP ボランティア等を活用して、生徒個々の学力向上のために、放課後学習や学習サポートを行った。また定期テスト前には学年ごとに学習会の日を設定して取り組んだ。定期テスト前の自主学習会への参加人数は、1学期の中間テスト41名(昨年36名)、期末テスト49名(昨年39名)であった。2学期の参加人数は、中間テスト44名(昨年度38名)、期末テスト36名(昨年度32名)であった。参加人数について大きな変動は見られなかったが、どの自主学習会も昨年度より参加が増加し、先生方の日ごろの声掛けの成果もあって、自主学習会が少しずつ定着してきて来たと考えられる。また、テスト一週間前は部活動もなく、職員室前で学習している生徒も見られるため、積極的な自主学習会への参加を促していく。</p> <p>3年生全国学力学習状況調査の無回答率は、国語5.1(大阪市4.1)、数学16.4(大阪市12.5)であった。特に数学は大阪市平均に大きく届かず、本校の学力向上に大きな課題が残った。</p> <p>取組内容③【4 誰一人取り残さない学力の向上】(教科 ICT 等を活用したわかる授業づくり)</p> <p>(国語)生徒アンケート調査の結果から、「国語の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、全学年90%以上の肯定的な回答を得ることができている。今後も ICT を活用し、生徒が主体的・対話的に授業に取り組めるよう努めていきたい。</p> <p>(社会)生徒アンケート調査の結果から、「社会の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答の割合が各学年ともに目標の90%を上回ることができている。今後も ICT を活用し、生徒が主体的・対話的に授業に取り組めるよう努めていきたい。</p> <p>(数学)生徒アンケート調査の結果から、「数学の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答の割合が各学年ともに目標の80%を上回ることができている。今後も ICT を活用し、生徒の理解が深めていけるように努めていきたい。</p> <p>(理科)生徒アンケート調査の結果から、「理科の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答の割合が各学年ともに目標の85%を上回ることができている。今後とも ICT を活用し、グループ活動などを通して生徒が理解できる授業を展開していきたい。</p> <p>(音楽)生徒アンケート調査「音楽の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答の割合が全体で80%を上回ることができている。80%を下回っている学年に対して、引き続き基礎的な学習を基盤に、創作的な活動などに ICT を活用した授業を研究していきたい。</p> <p>(美術)生徒アンケート調査の結果から、「美術の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、肯定的な回答の割合が各学年ともに目標の80%を上回ることができている。今後も生徒が主体的に学ぶ授業づくりを目指して、ICT の活用や鑑賞などを通して生徒の理解や興味を深める授業を努めていき</p>	

たい。

(保体)心身の機能の発達や体力の向上につながる授業を毎時間行い、健康や安全についての理解が効率良く深まるように ICT 機器を活用した授業を構築しており、12月実施の構内アンケートにおいて、「保健体育の授業に前向きに取り組んでいる」の項目で、どの学年においても90%以上、全学年平均で94%以上の肯定的な回答を得ている。

(技家)生徒アンケート調査の結果から、「技術の授業に前向きに取り組んでいる」「家庭科の授業に前向きに取り組んでいる」の項目で、肯定的な回答の割合が目標の80%を上回ることができている。後期も生徒が主体的に学ぶ授業づくりを目指して、ICTの活用やグループ活動を通じて生徒の理解を深める学習を目指していきたい。

(英語)生徒アンケート調査の結果から、「英語の授業に前向きに取り組んでいる」の項目において、全体で88%以上の肯定的な回答を得ることができている。今後も4技能5領域すべてを行う上でもICTを活用しながら、生徒たち自身が興味をもてる授業に努めていきたい。

(特別支援)多様なニーズに柔軟対応するため、保護者や支援を受ける生徒との面談を年3回実施し、家庭と学校の連携を強化した。さらに、デジタル教科書や学習アプリ、視覚教材を活用した授業づくりを進め、生徒が主体的に学べる環境を整備した。放課後やテスト前には、学習支援の場を設けた。

取組内容④【5 健やかな体の育成】(生活指導部 部活動の充実)

今年度の部活動加入率は78%で昨年度の75%を上回ることができている。次年度も生徒が意欲的に、充実した活動ができるように指導していきたい。

次年度への改善点

取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】(教務部 全教科 ICT を活用した授業と校内研究授業の実施)

生徒が学習者用端末を使う授業づくりを促進するために、生徒と教員の両方の活用スキルアップを次年度以降行っていきたい。

取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】(管理職 放課後学習の充実)

自主学習会の参加人数は昨年度より微増ではあるが確かな成果が出ている。学年別の参加者は1年生が多くなっている。部活動を引退した3年生を中心に入試を意識させながら、学習習慣の確立をめざして放課後学習会や自主学習会に取り組ませることが有効であると考えられる。

取組内容③【4 誰一人取り残さない学力の向上】(教科 ICT 等を活用したわかる授業づくり)

(国語)今年度は、アンケートの目標数値をどの学年も達成することができた。また思考・判断・表現力の向上のために ICT を活用した授業や漢字小テスト、授業のまとめ作文、単元ごとの言語活動に取り組み、生徒が授業に前向きに取り組めるような工夫を今後も展開する。

(社会)社会科ではデジタルドリルやデジタル教科書といった ICT 機器をつかった視覚教材を積極的に使用しており、生徒が主体的に学べる環境を整備してきた。また、今後は ICT を活用したグループワーク活動を通じて、生徒間、生徒と教員間で対話をしながら学べる環境づくりを図っていく。

(数学)今年度は、どの学年もアンケートの目標を達成することができた。来年度も、引き続き ICT を活用し、生徒が主体的に取り組める授業を実践していきたい。

(理科)今年度は目標の数値を達成することができた。来年も ICT や実験を取り入れた授業を展開し、グループワークの機会を設けるなど、生徒が積極的に取り組める授業作りをしていきたいと思う。

(音楽)今年度は複数学年で創作分野に ICT を活用した。生徒の表現活動のひとつとして継続していきたい。

(美術)美術科では、鑑賞授業等で ICT 機器を積極的に活用している。今後は、生徒自らが ICT 機器を使用し、主体的に取り組める授業にしていきたい。

(保体)保健分野においては、積極的に ICT 等を活用しているが、体育分野では実施内容によって、積極的な活用ができていない現状があるため、動作の振り返りや作戦会議など積極的な活用を図る。

(技家)技家冬季課題や、年度後半の授業では ICT 機器を取り入れ、声を出して発言しにくい生徒の意見も積極的に拾うことができました。次年度は ICT による共同作業なども取り入れて、班活動を増やし対話的学習を充実させたいと思います。

(英語)

英語科では英検でスタサプを使用するほか、授業内でも主体的に取り組める工夫として様々な角度から ICT を利用した授業をしている。これからも効果的な活用法を考え、実践していきたい。

(特別支援)さまざまな困難を抱える支援対象の生徒に対し、これからも ICT 機器を積極的に活用し、学習困難の特性を理解する支援を進めていきたい。また、ICT の活用によって、学習意欲の自己肯定感の育成にもつなげていきたい。

取組内容④【5 健やかな体の育成】(生活指導部 部活動の充実)

来年度以降も、より充実した活動ができるように取り組んでいきたい。

大阪市立平野北中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ① 授業日において生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業数の80%以上にする。(但し、事務局が定める学校行事等、ICT活用が適さない日数を除く) ② 年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。 ③ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」における教職員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教員の割合を基準1は49.7%以上、基準2は75.4%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【6 教育DXの推進】(教務部 ICT教育推進担当) 学習者用端末の家庭への持ち帰りをさせて、家庭学習での活用を推進させる。また、引き続き学校生活でも端末の活用を推進していく。		A
指標 年度末の校内調査における「日々の学校生活の中で学習者用端末を活用している」に対して、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を80%以上にする。		
取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】(管理職) 教職員に対してゆとりの日として、職員会議や研修会などで生徒が校内に残らない日、各部活動のない平日、テスト週間時に早めの退勤を促すとともに、定期テスト最終日以外の定時退勤を推奨する。また学校閉庁日を長期休業中に設定することで、教職員の休みを取りやすい環境をつくる。さらに各学期の終業式実施日を弾力的運用により1日前倒しで実施しするとともに、本年度より2学期の始業式を1日後倒しして、長期休業を1日ずつ増やす。		A
指標 教職員の長時間勤務の状況を、大阪市平均以下かつ昨年度より少なくする。		
取組内容③【8 生涯学習の支援】(教務部 図書) 読書活動(朝読書)の推進により、学びに向かう力を育てる。また、図書ボランティア、学校司書、元気アップコーディネーターらとともに図書室の環境を整え、図書室の利用率の向上を図る。		A
指標 ポスターや図書だよりを発行し、図書の配置を工夫して図書の紹介に努める。学校評価アンケートの「学校図書館や学級文庫を利用している」の項目における肯定的回答の割合を前年度以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
取組内容①【6 教育DXの推進】(教務部 ICT教育推進担当) 12月実施の生徒評価アンケート調査における「日々の学校生活の中で学習者用端末を活用している」に対して、肯定的な生徒の割合は90%を超えた。生徒が学習するためのツールとして定着した。		
取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】(管理職)		

今年度上半期では1ヵ月の時間外勤務時間平均が昨年度より約3.5時間短縮され、大阪市中学校と比較しても約44分短くなった。下半期は10月:40時間07分(昨年10月:39時間42分)、11月:37時間44分(昨年11月:36時間57分)、12月:33時間51分(昨年12月:36時間16分)であった。この結果、上半期を含む4月～12月において1ヵ月の時間外勤務時間平均は昨年度より約2時間25分短縮され、大阪市中学校平均より約1時間10分短くなった。大阪市平均より短くなったことを考えると、ゆとりの日の設定や学校閉庁日の設定などにより、大阪市中学校と同じ水準にまで長時間勤務時間を減らすことができている。また、教職員も部活動がない日も含め、早めの退勤をする雰囲気や意識が高まってきたと感じられる結果となった。

取組内容③【8 生涯学習の支援】(教務部 図書)

新着図書や時期に応じた図書を面展台に展示するなど工夫してわかりやすい展示に努めた。夏休みにはたくさんの方にご協力をいただき蔵書点検を行った。また、長寿命化改修工事に向けて、古い図書の除籍や備品の処分を行い、学級文庫への活用も促すことができた。学級文庫の選定は図書委員を中心に行い、「本の木」の作成や学年の実態に応じた朝読書活動の推進も行った。また元気UP通信や下足室前掲示板、放送を通じての新着図書紹介等で生徒の興味を引く工夫も継続して行った。平野区読書ノートの取り組みにおいても1年生6名、2年10名、3年5名の21名が3000ページ以上の記録に到達、学校評価アンケートの「学校図書館や学級文庫を利用している」の項目も前年度12月実施分より6.2ポイント上回り、本に親しむ様子が見受けられた。

次年度への改善点

取組内容①【6 教育DXの推進】(教務部 ICT教育推進担当)

学習者用端末や周辺機器の管理を徹底していく必要がある。なるべく故障機が出ないようにするため、生徒の管理意識も高めていきたい。

取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】(管理職)

来年度に向けて現在のゆとりの日の設定に加えて、校内研修などで部活動がない日を新たにゆとりの日に設定し、早めの退勤を啓発する。また、業務内容の精選や業務量の偏りを改善することでより良いワークライフバランスを実現していく。

取組内容③【8 生涯学習の支援】(教務部 図書)

朝読書の活動に全学年が継続して取り組めるようにしたい。長寿命化改修工事で学校図書館が移転するため、引き続き図書の整備・除籍や、備品の整備を行う。

大阪市立平野北中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
【その他 食育を含めた生活習慣と教育環境整備】 ① 食育を進め、校内調査で「給食を全部食べている・ほぼ食べている」とする回答を90%以上にする。 ② 学習環境の整備と校内美化の取り組みを進め、年度末の校内調査で「学校はいつもきれいだと思う」に対して、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【5 健やかな体の育成】(健康管理部 健康な生活習慣の確立) a. 保健室の来室状況などを踏まえ、実態に基づく適切な指導に努める。 また、相談活動を通して、心のケアにも努める。 b. 学級担任、生活指導部と連携し、基本的な生活習慣の育成に努めるとともに、給食の時間が楽しく豊かな食育の一環となる集団育成に努める。	A
指標 b. 校内アンケートで「給食を全部食べている・ほぼ食べている」とする回答を90%以上にする。	
取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】(健康管理部 学習環境の整備) 美化委員会の活動を中心に、学習環境の整備と校内美化に努める。	A
指標 学習環境の整備と校内美化の取り組みを進め、校内アンケートで「学校はいつもきれいだと思う」という割合を80%以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【5 健やかな体の育成】(健康管理部 健康な生活習慣の確立) aについて、保健室来室生徒に対し、個別に応じた保健指導を行った。健康委員会の活動として、感染症の予防法についての動画を作成し、全校生徒へ啓発した。相談活動については、SSR、SC、SSWと連携をし、不登校傾向にある生徒の情報共有とサポート体制について共通理解を行い、対応した。 bについて、「給食を全部食べている・ほぼ食べている」のアンケート結果は、肯定的回答の割合が、94.5%であった。(昨年度末は90.4%であった。)取り組みは、給食の放送、給食だより、食育つうしん、完食調査、給食週間の取り組み(12月実施)などを行った。また、栄養教諭による「食に関する指導」を2年生は「見直そう水分補給」を7月2日に3クラス合同で実施、3年生は「あなたに必要な栄養量とは?～受験に向けて～」を2クラス合同で1月14日、1月15日に実施。1年生では、3月に明治乳業から講師を招き、社会科の時間を活用し、「未来はみんなで作るもの やってみよう SDGs」について学習予定である。 取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】(健康管理部 学習環境の整備) 「学校はいつもきれいだ」のアンケート結果は、肯定的回答の割合が、84.1%であった。長寿化工事の影響が大きいと思われるが、今後も引き続き美化委員会の活動を中心として継続的に取り組んでいきたい。

次年度への改善点
<p>取組内容①【5 健やかな体の育成】(健康管理部 健康な生活習慣の確立)</p> <p>栄養教諭による指導が今年度は2、3年のみであったため、来年度は年間行事予定に組み込み、各学年「食に関する指導」を年1回は取り組むようにする。bについても健康委員会の活動もさらに活発にしていきたいと考える。</p> <p>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】(健康管理部 学習環境の整備)</p> <p>日常の清掃活動や、大清掃を充実させ美化委員会の活動もさらに活発にしていきたい。</p>